

オスプレイの墜落事故に抗議し、即刻の運用停止、事故原因の究明、日本の
すべての基地から撤去を求める決議について
本市議会は、別紙のとおり決議する。

令和5年12月22日提出

議会議員	味	村	耕太郎		
	同	大	矢	徹	
	同	柳	沢	潤	次
	同	友	田	宗	也

オスプレイの墜落事故に抗議し、即刻の運用停止、事故原因の究明、
日本のすべての基地から撤去を求める決議

米空軍C V22 オスプレイが、令和5年11月29日に鹿児島県屋久島沖に墜落し、乗員8名の死亡が確認される極めて重大な事故が起きた。事故を受け、米軍は12月7日、世界に配備しているすべての種類のオスプレイの飛行を停止したと発表した。米国防総省が輸送機V22 オスプレイの新規調達を終了することが8日までに分かり、令和8年予定で生産ラインを閉鎖するが、米空軍の当初の調達予定に変更はなく、飛行訓練には影響しない見通しである。

そもそもオスプレイには、日本の航空法で義務付けられているオートローテーション（自動回転）機能がないことから、もともと日本の空を飛ぶことのできない航空機である。本市でもオスプレイの配備撤回を求める陳情が審議され、意見書を平成24年10月4日に採択した経過がある。

現在も本市上空を飛行しており、市民から不安の声は上がり続けている。日米政府に対して、米軍と自衛隊のオスプレイ全機をただちに運用停止し、事故原因を明らかにし、米軍のオスプレイ全機を日本から撤去するとともに、陸上自衛隊へのオスプレイの導入を中止し、撤去することを求める。

以上、決議する。

令和5年12月22日

藤 沢 市 議 会